

病診連携医学講座（山形大学医学部医学講座）を開催いたします。ぜひ会館で多数ご受講ください。

令和8年

2月7日(土) 13:00▶16:50

会場：山形県歯科医師会館／受講方法：会場またはWeb

令和7年度 病診連携医学講座 (山形大学医学部医学講座) のご案内

講演 I

最近の歯科保健医療の動向

講師 厚生労働省 医政局歯科保健課
課長 小嶺 裕子 氏



講演 II

睡眠時無呼吸症候群の基礎と臨床 および歯科とのかかわり

講師 医療生活協同組合やまがた
鶴岡協立病院 副院長
高橋 牧郎 先生



講演 III

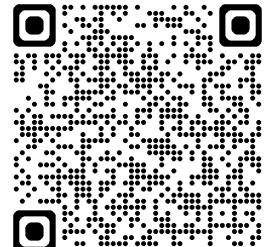
睡眠時無呼吸における歯科の役割 ～実践編～



講師 山形大学医学部
歯科口腔・形成外科学講座教授
石川 恵生 先生



対象
山形県歯科医師会
会員・スタッフ
山形県歯科衛生士会・
歯科技工士会会員



【申込方法・締切】

左記二次元コードまたは山形県歯科医師会HP
より2月2日（月）までお申し込みください。
会館受講またはWeb受講を選択してください。
締切日以降登録アドレスに招待メールを
お送りします。

【講演 I】最近の歯科保健医療の動向

厚生労働省医政局歯科保健課 小嶺 祐子

我が国の人団は、生産年齢人口を中心に減少する一方で、75歳以上を中心に高齢者数は2040年頃まで増加し、医療・介護の複合ニーズを有する85歳以上の高齢者が増加することが見込まれている。2040年以降においても、全ての地域・全ての世代の患者が、適切な医療・介護を受けることができるよう、医療提供体制を整備することが重要な課題となっている。

これらの社会環境の変化に伴い、歯科医療を取り巻く状況も変化しつつある。入院患者や要介護高齢者等への口腔管理など歯科専門職が果たす役割や、かかりつけの歯科医師によるライフコースを通じた、継続的・定期的な歯科疾患の重症化予防や口腔機能管理に対応することがより重要となると考えられる。

人口構成の変化や歯科医療に対するニーズの多様化は、歯科医療の提供にも影響を及ぼすことから、厚生労働省では「歯科医療提供体制等に関する検討会」を設置し、これから歯科医療提供体制の構築にあたり求められる内容の検討を進めている。令和6年5月に公表した本検討会の中間とりまとめの中で、多様化する歯科医療ニーズに対応するため、診診連携や病診連携の更なる推進も含む様々な医療機関や関係機関と連携体制を整備する必要がある旨や地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携・多職種連携の重要性について記載されている。また、歯科医師の高齢化などによる歯科医師数の状況も地域による差が出始めていることから、令和7年7月に「歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ」を立ち上げて歯科医師の必要数や地域偏在の状況等について議論を行っているところである。

また、医療提供に関する動きとして、平成20年2月以降開催されていなかった医道審議会医道分科会診療科標榜部会が令和7年9月に開催され、日本睡眠学会からの要望に基づき標榜可能な診療科名と組み合わせて標榜できる用語として、新たに「睡眠障害」を追加することについて議論が行われている。

本講演では、これらの内容を含め、最近の歯科保健医療に関する動向を紹介させていただきたい。

【小嶺祐子氏略歴】

- 2000年 東北大学 歯学部 卒業
- 2006年 東北大学大学院歯学研究科博士課程 修了
- 2008年 東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野 助教
- 2011年 厚生労働省入省
- 2016年 厚生労働省 保険局医療課 課長補佐
- 2018年 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐
- 2021年7月 厚生労働省 医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 室長
- 2023年1月 厚生労働省 保険局医療課 歯科医療管理官
- 2024年6月 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長
- 現在に至る

【講演II】睡眠時無呼吸症候群の基礎と臨床および歯科とのかかわり

医療生活協同組合やまがた

鶴岡協立病院 副院長 高橋 牧郎

睡眠時無呼吸症候群は、閉塞性と中枢性に大別されるが大多数は前者で、上気道の狭小化と呼吸の不安定性が原因とされ、日本の治療すべき患者数は 900 万人ともいわれ潜在患者の多さが指摘される。睡眠中の繰り返す無呼吸により、間歇的低酸素と睡眠の分断がおこることで、様々な症状や合併疾患をきたす。終夜睡眠ポリグラフ検査で、10 秒以上の呼吸停止や気流の減少を測定して診断し重症度を決定する。治療は、重症度によって CPAP（持続陽圧呼吸）、歯科で作成する口腔内装具（OA）などが行われており、特に OA をめぐり医科と歯科の連携が重要となっている。

【講演III】睡眠時無呼吸における歯科の役割～実践編～

山形大学医学部歯科口腔・形成外科学講座教授 石川恵生

これまで歯科医師が睡眠時無呼吸患者と関わる際は、医科すでに診断をされている患者への対応ということもあります。どうやって口腔内装置をつくるかという「ものづくり」に偏りがちであったのではないかと思います。恥ずかしながら、私自身も若かりしときは、睡眠時無呼吸と診断された患者に対し、初診時に印象採得を行い、下顎を前方に誘導するマウスピースを作製し、再診時に出来上がったマウスピースをお渡しして終診にするという単なる「ものづくり」を行ってしまっておりました。

しかし本来、歯科医師が睡眠時無呼吸患者の治療に関わる際には、「口腔内装置をどのように作るか」という技術ではなく、歯科医師としてどのように関与すべきかという、疾患と向き合う姿勢が重要です。これは本来、医療に携わる者として当然ともいえる視点ですが、必ずしも十分に意識されてきたとは言えません。睡眠時無呼吸は単なるいびきの問題ではなく、循環器疾患や代謝異常、日中の QOL 低下などとも深く関係する全身疾患です。その中で歯科医師は、口腔・顎顔面領域の専門家として、独自の役割を果たすことが求められています。

本講演では、歯科医師として私がこれまで「行ってきてしまった」睡眠時無呼吸患者への対応を振り返り、その反省点を率直に共有するとともに、睡眠時無呼吸という疾患に対して歯科医師がどのように向き合い、そして医科とどのように連携しながら関与していくべきかについて提案させていただければ幸いです。といいましても決して難しい内容ではなく、すぐに診療に応用できる実践的な内容だと確信しています。

日本国内における閉塞性睡眠時無呼吸の潜在患者は約 500 万人とも言われています。そしてその 1 割程度しか受診していないとも言われています。すなわち、この睡眠に関わる歯科医療は完全にブルーオーシャンといえる分野です。本講演が、先生方が日常診療で行っている睡眠時無呼吸への関与を、より確かなものにするための一助となれば幸いです。

令和7年度病診連携医学講座（山形大学医学部医学講座）日程

日 時 令和8年2月7日（土）午後1時～午後4時50分
場 所 山形県歯科医師会館 4階大会議室（Web併用）

		司会進行：学術常任委員会委員 池田聰子
13:00	1. 開 会	学術常任委員会委員 松田一真
	2. 挨 捶	山形県歯科医師会会长 土門宏樹
	3. 講師紹介	山形県歯科医師会常務理事 富樫正樹
13:10	4. 講 演 【講演1】（30分） 「最近の歯科保健医療の動向」 講 師 厚生労働省 医政局歯科保健課 課 長 小嶺祐子氏 <質疑応答>	
13:45	【講演2】（90分） 「睡眠時無呼吸症候群の基礎と臨床および歯科とのかかわり」 講 師 医療生活協同組合やまがた 鶴岡協立病院 副院長 高橋牧郎先生 <質疑応答>	
15:20	【講演3】（90分） 「睡眠時無呼吸における歯科の役割～実践編」 講 師 山形大学医学部歯科口腔・形成外科学講座 教授 石川恵生先生 <質疑応答>	
16:50	5. 閉 会	学術常任委員会委員 奥山淳史